

(8)「あいりん地域まちづくり会議」の各検討会議の内容

この会議の存在および内容について

〈単一回答〉	ア. 町会・住民	イ. 労働者	ウ. 商店街	エ. ケースワーカー	エ. 保健業者	フ. 簡易宿泊者
①おおよその内容は知っている	1	12	2	10	2	2
②内容は少し(一部)知っている	3	12	1	25	0	1
③内容は知っているが、内容は知らない	3	25	3	48	1	0
④今回、はじめて知った	10	58	9	56	12	3
無回答	53	4	13	24	1	3
有効回答者数	70	111	28	163	16	9

(1)「市営住宅建設検討会議」の内容

〈単一回答〉	ア. 町会・住民	イ. 労働者	ウ. 商店街	エ. ケースワーカー	エ. 保健業者	フ. 簡易宿泊者
①おおよその内容は知っている	0	15	3	7	4	1
②内容は少し(一部)知っている	3	25	2	25	1	2
③内容は知っているが、内容は知らない	4	5	1	39	0	2
④今回、はじめて知った	11	63	18	82	10	3
無回答	52	3	4	10	1	1
有効回答者数	70	111	28	163	16	9

(2)「医療施設検討会議」の内容

〈単一回答〉	ア. 町会・住民	イ. 労働者	ウ. 商店街	エ. ケースワーカー	エ. 保健業者	フ. 簡易宿泊者
①おおよその内容は知っている	1	13	3	8	4	0
②内容は少し(一部)知っている	3	18	1	26	0	1
③内容は知っているが、内容は知らない	3	7	2	40	0	3
④今回、はじめて知った	11	70	18	79	11	4
無回答	52	3	4	10	1	1
有効回答者数	70	111	28	163	16	9

(3)「駅前活性化検討会議」の内容

〈単一回答〉	ア. 町会・住民	イ. 労働者	ウ. 商店街	エ. ケースワーカー	エ. 保健業者	フ. 簡易宿泊者
①おおよその内容は知っている	3	12	3	7	4	2
②内容は少し(一部)知っている	1	13	1	20	0	0
③内容は知っているが、内容は知らない	3	8	2	48	0	2
④今回、はじめて知った	13	75	18	78	11	4
無回答	50	3	4	10	1	1
有効回答者数	70	111	28	163	16	9

(4)「労働施設検討会議」の内容

〈単一回答〉	ア. 町会・住民	イ. 労働者	ウ. 商店街	エ. ケースワーカー	エ. 保健業者	フ. 簡易宿泊者
①おおよその内容は知っている	0	13	4	7	4	1
②内容は少し(一部)知っている	3	25	0	21	0	1
③内容は知っているが、内容は知らない	4	8	2	45	0	2
④今回、はじめて知った	10	62	18	80	11	4
無回答	53	3	4	10	1	1
有効回答者数	70	111	28	163	16	9

第4章 今後のまちづくりの方向性の検討にかかる具体化

(5)「公園検討会議」の内容

〈単一回答〉	A 町会・住区	B 労働者	C 高齢者	D ケースワーカー	E 保健士	F 施設所長・ナー
①おおよその内容は知っている	1 1.4%	4 3.5%	3 10.7%	2 1.2%	4 25.0%	0 0.0%
②内容は少し(一部)知っている	1 1.4%	5 4.5%	0 0.0%	18 11.0%	0 0.0%	2 22.2%
③内容は知っているが、内容は知らない	3 4.3%	3 2.7%	1 3.6%	42 25.5%	0 0.0%	2 22.2%
④今回、はじめて知った	14 20.0%	96 80.5%	20 71.4%	91 55.8%	11 68.8%	4 44.4%
無回答	51 62.9%	3 2.7%	4 14.3%	10 6.2%	1 6.2%	1 11.2%
有効回答者数	70	111	28	163	16	9

- ・ どの設問についても「④今回、はじめて知った」の評価が高い。
- 全ての属性で、会議が行われていること、検討会議の内容について、知らないという評価が高かった。検討内容や会議結果等を地域に関わる多くの方々に知ってもらう方法を検討していくことも今後の課題としてある。

3. 商店街店舗調査の結果・分析

・有効回答者数：27件 ※図表中の「n」は標本数(サンプル数)を表す

(1) 回答者の基本属性

性別と年代

〈単一回答〉	男	女	無回答	合 計
40歳代	5	0	0	5
50歳代	4	0	0	4
60歳代	10	2	0	12
70歳代	3	2	0	5
無回答	0	0	1	1
有効回答者数	22	4	1	27

商店街組合加入状況

〈単一回答〉	n	割合
加入	21	77.8%
未加入(無回答含む)	6	22.2%
有効回答者数	27	

居住歴

〈単一回答〉	n	割合
20年以上～30年未満	2	7.4%
30年以上～40年未満	0	0.0%
40年以上～50年未満	3	11.1%
50年以上～60年未満	3	11.1%
60年以上	9	33.3%
無回答	10	37.1%
有効回答者数	27	

就業歴 ※現在の店

〈単一回答〉	n	割合
～10年未満	1	3.7%
10年以上～20年未満	2	7.4%
20年以上～30年未満	5	18.5%
30年以上～40年未満	4	14.8%
40年以上～50年未満	5	18.5%
50年以上～60年未満	4	14.8%
60年以上	2	7.4%
無回答	4	14.9%
有効回答者数	27	

住まい

〈単一回答〉	n	割合
あいりん周辺	3	11.1%
現在の店舗	5	18.5%
西成区内	5	18.5%
大阪市内	7	25.9%
大阪府内	2	7.4%
(空白)	5	18.6%
有効回答者数	27	

店舗形態

〈単一回答〉	n	割合
住居兼店舗	15	55.6%
店舗のみ	9	33.3%
(空白)	3	11.1%
有効回答者数	27	

建物、土地の所有形態

		土地			
		自己所有	賃貸	無回答	合計
建物	自己所有	16	1	0	17
	賃貸	0	7	1	8
	無回答	0	0	2	2
	有効回答者数	16	8	2	27

業種

	〈単一回答〉	n	割合
小売店		16	59.3%
サービス業		5	18.5%
外食業		4	14.8%
加工業		1	3.7%
(空白)		1	3.7%
有効回答者数		27	

経営方法

	〈単一回答〉	n	割合
自営業		25	92.6%
法人		1	3.7%
無回答		1	3.7%
有効回答者数		27	

社員・従業員数

	〈単一回答〉	n	割合
家族のみ		11	40.7%
社員、アルバイト		5	18.5%
本人のみ		9	33.3%
無回答		2	7.5%
有効回答者数		27	

(2) ここ約5～10年の経営状況について変化

売上

	〈単一回答〉	n	割合
①減少した		19	70.4%
②少し減少		4	14.8%
③変わらない		3	11.1%
④少し増加した		0	0.0%
⑤増加した		1	3.7%
無回答		0	0.0%
有効回答者数		27	

来客数

〈単一回答〉	①減少した	②少し減少	③変わらない	④少し増加した	⑤増加した	無回答
周辺住民	19 70.4%	3 11.1%	4 14.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%
労働者	21 77.8%	3 11.1%	3 11.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
観光客	1 3.7%	0 0.0%	7 25.9%	9 33.3%	9 33.3%	1 3.8%
外国人	1 3.7%	0 0.0%	3 11.1%	10 37.0%	12 44.4%	1 3.8%
有効回答者数	27					

- ・ 店舗運営全体では、ここ5～10年の売上について、「①減少した(70.4%)」「②少し減少した(14.8%)」と85%以上の経営者が回答している。
- ・ 属性別の来客者数では、周辺住民や労働者の減少を感じている店舗が多いものの、観光客や外国人の来客の増加も感じられている。
- ここ数年の労働者の高齢化、インバウンド等の影響により客層の変化が著しく、経営手法や方針の変化などの対応が出来ていない(しない)店舗も多く、売上の減少につながっていると思われる。

(3) 今後(5~10年)の経営

継続意向

	〈単一回答〉	n	割合
①このまま経営を続ける		16	59.3%
②親族が引き継ぐ		2	7.4%
③社員、他人に引き継ぐ		0	0.0%
④住宅として利用する		1	3.7%
⑤テナントとして貸し出す		1	3.7%
⑥売却する		7	25.9%
無回答		0	0.0%
有効回答者数		27	



経営についての意見	・安心して経営していきたい
-----------	---------------

経営で力を入れていきたいこと

	〈複数回答〉	n	割合
①周辺住民の利用を増やす		7	25.9%
②労働者の利用を増やす		3	11.1%
③観光客の利用を増やす		8	29.6%
④店舗を改装する		5	18.5%
⑤店舗を建替える		0	0.0%
⑥営業形態を変える		1	3.7%
⑦インターネット販売		1	3.7%
⑧その他		6	22.2%
無回答		6	22.2%
有効回答者数		27	



観光客の利用を増やす場合の属性

	〈複数回答〉	n	割合
日本人		7	25.9%
外国人		3	11.1%
有効回答者数		8	

その他の意見	・もうけなくても今を続けられれば ・やめる ・現況のまま
--------	------------------------------------

- ・ 継続意向は、「①このまま経営を続ける」が 59.3%、「⑥売却する」が 25.9%となっている。
- ・ 経営で力を入れたいこととして、「①周辺住民の利用を増やす(25.9%)」「③観光客の利用を増やす(29.6%)」が高くなっている。
- 今後の継続意向として、1/4の店舗が売却を望んでおり、ますます店舗の減少や他の事業者の参入が続くと思われる。
- 経営方針としては、減少した周辺住民の利用回復や観光客の取り込みなど、新たな客層の来店率の向上を考えている店舗も多くある。

(4) 自身のお店や地域周辺で不安に思うこと

不安に思う内容

〈複数回答〉	n	割合
①マナーなどの環境が悪化	12	44.4%
②にぎわいが乏しい	15	55.6%
③イベントが乏しい(地域活性化)	6	22.2%
④店舗同士の交流が乏しい	6	22.2%
⑤商店街組合の未加入が増加	4	14.8%
⑥経営や利活用時の相談場所がない	2	7.4%
⑦高齢者の増加	20	74.1%
⑧子どもの減少	11	40.7%
⑨労働者の減少	7	25.9%
⑩外国人経営者の増加	17	63.0%
⑪観光客の増加	7	25.9%
⑫民泊の増加	12	44.4%
⑬空き店舗が増えている	14	51.9%
⑭店舗の住宅化	0	0.0%
⑮空き地が増えている	2	7.4%
⑯その他	1	3.7%
有効回答者数	27	



観光客の属性

〈複数回答〉	n	割合
日本人	0	0.0%
外国人	7	100.0%
有効回答者数	7	

その他の意見

・時代の変化への対応

特に不安に思っていること

〈複数回答〉	n	割合
①マナーなどの環境が悪化	6	22.2%
②にぎわいが乏しい	6	22.2%
③イベントが乏しい(地域活性化)	2	7.4%
④店舗同士の交流が乏しい	0	0.0%
⑤商店街組合の未加入が増加	2	7.4%
⑥経営や利活用時の相談場所がない	0	0.0%
⑦高齢者の増加	8	29.6%
⑧子どもの減少	1	3.7%
⑨労働者の減少	2	7.4%
⑩外国人経営者の増加	10	37.0%
⑪観光客の増加	1	3.7%
⑫民泊の増加	4	14.8%
⑬空き店舗が増えている	6	22.2%
⑭店舗の住宅化	0	0.0%
⑮空き地が増えている	0	0.0%
⑯その他	1	3.7%
無回答	2	7.4%
有効回答者数	27	

- ・ 地域周辺で不安に思っていることは、「⑦高齢者の増加」が74.1%、「⑩外国人経営者の増加」が63.0%と高くなっている。特に不安に思っている内容でも同様に高くなっている。

- 高齢者の増加による売上減少や、外国人経営者が参入することによる不安が顕著にあらわれており、店舗同士(商店街として)のつながりが薄れつつあるように思われる。

4. ケースワーカー調査の結果・分析

・有効回答者数：164件

(1) 回答者の基本属性

担当別数

一般(64歳以下)	86
高齢者(65歳以上)	43
無回答	35
有効回答者数	164人

担当被保護者の属性(担当別の平均値)

担当	経験年数	担当 被保護世帯数	新規開始世帯数	転居・廃止数 (年間)	あいりん地域外へ の転出件数(年間)
一般	4.5	92.1	19.7	20.4	5.7
高齢者	5.8	353.0	19.4	36.7	11.9
無回答	6.2	254.5	16.5	59.0	9.0

(2) 被保護者の住宅をどのような方法で選ぶか

【選び方】

〈複数回答〉	一般	高齢者	無回答	合計
①自力で選んでいる	57 66.3%	36 47%	24 68.6%	117 71.3%
②相談窓口等での紹介	13 15.1%	4 9.3%	7 20.0%	24 14.6%
③傾向はない	2 2.3%	1 2.3%	0 0.0%	3 1.8%
④わからない	10 11.6%	3 7.0%	2 5.7%	15 9.1%
⑤その他	4 4.7%	0 0.0%	2 5.7%	6 3.7%
無回答	3 3.5%	1 2.3%	2 5.7%	6 3.7%
有効回答者数	86	43	35	164

その他の内容	・NPOからの紹介 ・家主が斡旋している		
--------	-------------------------	--	--

【情報】

〈複数回答〉	一般	高齢者	無回答	合計
①地元の不動産屋	61 70.9%	31 72.1%	23 65.7%	115 70.1%
②WEBの不動産情報	2 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%
③家族	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
④友人知人	12 14.0%	9 20.9%	2 5.7%	23 14.0%
⑤自治会や民生委員	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑥支援者	16 18.6%	10 23.3%	9 25.7%	35 21.3%
⑦傾向はない	2 2.3%	2 4.7%	1 2.9%	5 3.0%
⑧わからない	6 7.0%	4 9.3%	2 5.7%	12 7.3%
⑨その他	7 8.1%	1 2.3%	1 2.9%	9 5.5%
無回答	3 3.5%	1 2.3%	3 8.6%	7 4.3%
有効回答者数	86	43	35	164

その他の内容	・家主営業 ・家主と直接交渉 ・家主の斡旋 ・アパート管理人 ・飛び込み ・看板等	・看板等	・HP、施設
--------	--	------	--------

- ・ 住まいの選び方は、「①自力で選んでいる」が71.3%と評価が高くなっている。
- ・ 住まいの情報源は、「①地元の不動産屋」が70.1%、次いで「⑥支援者」が21.3%という評価になっている。
- 多くの方が自力で物件を選び、情報源として主に不動産屋から得ていることがわかる。また、支援団体や友人知人からの情報を得ている人も多い。

被保護者の住宅をどのような方法で選ぶか【自由記述】

【一般】	
事業者からの勧誘	・一部マンション、アパートは区外に出向き深夜早朝にホームレス等に声をかけ言葉巧みに誘導し、家賃収入を増やすために無理やり保護申請を行わせ私腹を肥やしていると聞いたことがある
	・街で声をかけられるケースが多いと感じる
	・区外のインターネットカフェや、ケアセンター等で地元不動産屋が勧誘している
	・公園等で声をかけられそのままという方が多いです
	・地元の不動産、管理会社が声掛けを行い紹介するケースが多い
	・新規の方については、地元の不動産屋が各所で声をかけて入居させている
	・梅田などを徘徊中に、不動産屋に声をかけられて
	・路上生活中にアパート管理人が声をかける
	・病院に出入りしている不動産からもある
	・家がない状態で相談窓口へ来て受付から施設か家を探すかの選択肢を示され後者を選ぶ人がほとんど。それ故、後日家への不満や転居費用の相談があった際、「役所の指示で借りた」と勘違いしている人も多い
その他	・転居時は自力で選んでいる方が多い
	・最近の新規の傾向は、相談窓口はNPO法人で居宅をもっており、そこに入居するのが増えてきたように感じます
	・他府県からでも出所して直接面接に来るようなこともある
【高齢者】	
その他	・市営住宅の入居が多い。また、他地域に比べると持家が多いように感じる
	・相談員が本人と相談して決めることが多い
	・長期入院、入所のため、ケースワーカーや施設職員が関わって居宅選択されている

- ・ 事業者から直接まちで声をかけられるケースもあることが意見としてあがっている。

(3) 被保護者はどのような住宅に住む場合が多いか

【建物種類】

〈複数回答〉	一般		高齢者		無回答		合計	
①木造アパートや長屋	21	24.4%	17	39.5%	11	31.4%	49	29.9%
②鉄骨アパートやマンション	72	87.7%	29	67.4%	20	57.1%	121	73.8%
③戸建住宅	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④傾向はない	1	1.2%	2	4.7%	4	11.4%	7	4.3%
⑤その他	2	2.3%	0	0.0%	1	2.9%	3	1.8%
無回答	2	2.3%	0	0.0%	3	8.6%	5	3.0%
有効回答者数	86		43		35		164	

その他の内容	・市営住宅(2件)	・介護施設
--------	-----------	-------

【部屋の広さ】

〈複数回答〉	一般		高齢者		無回答		合計	
①3畳一室程度	20	23.3%	10	23.3%	4	11.4%	34	20.7%
②4~6畳一室程度	56	65.1%	30	69.8%	24	68.6%	110	67.1%
③二部屋以上	5	5.8%	2	4.7%	2	5.7%	9	5.5%
④傾向はない	5	5.8%	2	4.7%	1	2.9%	8	4.9%
⑤わからない	0	0.0%	0	0.0%	1	2.9%	1	0.6%
無回答	4	4.7%	2	4.7%	3	8.6%	9	5.5%
有効回答者数	86		43		35		164	

【風呂・便所】

〈複数回答〉	一般		高齢者		無回答		合計	
①なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②共同	26	30.2%	11	25.6%	7	20.0%	44	26.8%
③便所あり風呂なし	4	4.7%	3	7.0%	1	2.9%	8	4.9%
④どちらもあり	47	54.7%	27	62.8%	21	60.0%	95	57.9%
⑤傾向はない	5	5.8%	1	2.3%	1	2.9%	7	4.3%
⑥わからない	1	1.2%	0	0.0%	2	5.7%	3	1.8%
無回答	3	3.5%	1	2.3%	3	8.6%	7	4.3%
有効回答者数	86		43		35		164	

【家賃】

〈複数回答〉	一般		高齢者		無回答		合計	
①3万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②3~5万円未満	83	95.3%	41	95.3%	33	94.3%	157	95.3%
③5万円以上	2	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.2%
④傾向はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	3.5%	2	4.7%	2	5.7%	7	4.3%
有効回答者数	86		43		35		164	

被保護者はどのような住宅に住む場合が多いか【自由記述】

【一般】
・住環境が悪いため不満を訴える被保護者が多い
・ドヤ物件ばかり
【高齢者】
・昔ながらの木造共同住宅が多い
【無回答】
・入院、入所者が対象なので敷金等の支給もあるので選択肢が多い
・部屋及び家にトイレ、風呂は必ず必要

- ・ 建物の種類は、「②鉄骨アパートやマンション」が 73.8%、「①木造アパートや長屋」が 29.9%とほとんどの割合を占めている。
 - ・ 部屋の広さは、「②4～6畳一室程度」が 67.1%、「①3畳一室程度」が 20.7%とほとんどの割合を占めている。
 - ・ 水回り(風呂・便所)は、「④どちらもあり」が 57.9%を占める一方、「②共同」が 26.8%と全体の1/4を占めている。
 - ・ 家賃については、「②3～5万円未満」が 95.7%とほとんどを占めている。
- 老朽化した木賃アパートや3畳一間、水回り(トイレ・風呂)が共同などの環境で暮らす入居者もあり、適切な住居の提供(マッチング)ができる仕組みを検討していく必要がある。

(4) 支援を通じて受ける困りごと

支援を通じて困りごとの相談を受けるか

〈単一回答〉	一般	高齢者	無回答	合計
ある	75 67.2%	40 31.0%	31 44.3%	146 35.2%
ない	8 9.3%	2 4.2%	2 5.7%	12 7.3%
無回答	3 3.5%	1 2.3%	2 5.7%	6 3.2%
有効回答者数	86	43	35	164

(困りごとの相談を受ける場合)どのような相談を受けるか

〈複数回答〉	一般	高齢者	無回答	合計
①健康のこと	49 65.3%	13 32.5%	11 35.5%	73 50.0%
②借金のこと	22 29.3%	19 47.5%	6 19.4%	47 32.2%
③家族関係のこと	12 16.0%	2 5.0%	4 12.9%	18 12.3%
④金銭管理のこと	31 41.3%	21 52.5%	18 58.1%	70 47.9%
⑤転居の事	63 84.0%	35 87.5%	25 80.6%	123 82.2%
⑥人付き合いのこと	19 25.3%	8 20.0%	5 16.1%	32 21.8%
⑦孤独感や寂しさ	17 22.7%	7 17.5%	1 3.2%	25 17.1%
⑧近隣や地域のこと	30 40.0%	19 47.5%	11 35.5%	60 41.1%
⑨お酒のこと	11 14.7%	4 10.0%	7 22.6%	22 15.1%
⑩賭け事	4 5.3%	2 5.0%	1 3.2%	7 4.8%
⑪将来の生活への不安	18 24.0%	7 17.5%	2 6.5%	27 18.5%
⑫死や辛いこと	9 12.0%	6 15.0%	1 3.2%	16 11.0%
⑬その他	3 4.0%	1 2.5%	2 6.5%	6 4.1%
有効回答者数	75	40	31	146

その他の内容	・お金のこと(諸費用) ・隣人トラブル ・仕事の事	・騒音問題が多い ・お金を貸してほしい (紛失、盗難、使いすぎなど)	・報告 ・生活状況について
--------	---	---	--

(困りごとの相談を受ける場合)どのような相談を受けるか【自由記述】

【一般】
・人生にあきらめを感じている人も多い
・漠然とした不安を口にする
・ケースワーカーより社会資源の案内や説明はするが、それを活用するに至る程の気力がそもそも無く、不安感も強い印象を受ける
【高齢者】
・健康のことについては、転院先を紹介してほしいと言われる
・「転居の事」と「人付き合い(騒音問題)」はセットで相談される
【無回答】
・お金のやりくりが出来ず使い果たし、お金を貸してと相談されることが多い
・近隣住民の騒音、近隣住民から嫌がらせを受けているとの妄想、室内の害虫の悩みで転居したいと相談される事例が多い

- ・ ケースワーカーが相談事を受ける割合は 89.0%あり、ほとんどの方が相談を受けている事がわかる。
- ・ 相談を受ける困りごとの内容は、「⑤転居の事」がもっとも多く 84.2%を占めている。「②借金のこと」については、一般(29.3%)にくらべ高齢者(47.5%)と高い割合となっている。
- ケースワーカーは転居時の相談窓口となっており、個々に合わせた適切な物件情報を提供することで、居住環境を改善できる可能性がある。そのためには、不動産情報を共有する仕組みも必要となってくると考えられる。
- 高齢者世帯は特に、借金や金銭管理のケアも求められているが、ケースワーカーが全てを担うのは困難であり、地域等との連携によつての包括的な支援体制等も必要となってくると考えられる。

(5) 転居時の相談内容と困りごと

転居相談を受ける頻度

〈単一回答〉	一般		高齢者		無回答		合計	
～5回未満	8	9.3%	1	2.3%	1	2.9%	10	6.1%
5回以上～10回未満	23	26.7%	1	2.3%	0	0.0%	24	14.6%
10回以上～15回未満	28	32.6%	5	11.6%	6	17.1%	39	23.8%
15回以上～20回未満	9	10.5%	5	11.6%	0	0.0%	14	8.5%
20回以上～25回未満	7	8.1%	6	14.0%	4	11.4%	17	10.4%
25回以上～30回未満	1	1.2%	2	4.7%	0	0.0%	3	1.8%
30回以上～35回未満	3	3.5%	12	27.9%	1	2.9%	16	9.8%
35回以上～40回未満	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	1	0.6%
40回以上～	1	1.2%	5	11.6%	1	2.9%	7	4.3%
無回答	6	6.9%	5	11.7%	22	62.8%	33	20.1%
有効回答者数	86		43		35		164	

転居をしたい理由として多い内容

〈複数回答〉	一般		高齢者		無回答		合計	
①騒音、静かさ	74	84.0%	37	86.0%	25	71.4%	136	89.9%
②借金のこと	23	26.7%	19	44.2%	6	17.1%	48	29.3%
③衛生面	33	38.4%	16	37.2%	13	37.1%	62	37.8%
④設備面	26	30.2%	13	30.2%	4	11.4%	43	26.2%
⑤部屋の広さ	28	32.6%	11	25.6%	6	17.1%	45	27.4%
⑥バリアフリー(段差や使い勝手)	7	8.1%	14	32.6%	7	20.0%	28	17.1%
⑦立地が悪い	4	4.7%	2	4.7%	3	8.6%	9	5.5%
⑧その他	2	2.3%	2	4.7%	2	5.7%	6	3.7%
有効回答者数	86		43		35		164	

その他の内容	・知り合いが多い	・半年程度住んだから	・退院、退所
	・隣の壁が薄くプライバシーが無い	・火災保険料、保証料が高い	・退院後の居宅移行

転居物件を探す(探してもらう)際に困ること

〈複数回答〉	一般		高齢者		無回答		合計	
①家賃が高い	9	10.5%	3	7.0%	0	0.0%	12	7.3%
②初期費用がない	63	33%	31	21%	23	65.7%	117	71.3%
③不動産情報が手に入らない	2	2.3%	3	7.0%	2	5.7%	7	4.3%
④バリアフリー等生活に適した物件がない	8	9.3%	9	20.9%	3	8.6%	20	12.2%
⑤立地条件が含まない	4	4.7%	3	7.0%	1	2.9%	8	4.9%
⑥被保護者自身に探す意欲がない	7	8.1%	3	7.0%	4	11.4%	14	8.5%
⑦その他	5	5.8%	0	0.0%	3	8.6%	8	4.9%
有効回答者数	86		43		35		164	

転居物件を探す(探してもらう)際に困ること【自由記述】

【一般】
・共益費が高い
・1階、エレベーター設置の物件がないと言う人がたまにある
・保証人がいない
・女性が入れる物件が少ない(あいりん地域内)
【無回答】
・勝手に契約してしまう

- ・ 年間に転居相談を受ける回数は、10回以上～15回未満がもっとも多い。
 - ・ 転居をしたい理由は、「①騒音、静かさ」が82.9%と最も高く、次いで、「③衛生面」が37.8%、「②借金のこと」が29.3%と高くなっている。
 - ・ 物件探しの困りごとは、「②初期費用がない」が71.3%と最も高い。
- 転居理由として騒音や衛生面が高くなっており、住居が心身を休める環境になっていない方が多いことがわかる。また、初期費用がない(敷金礼金がない)ことが物件探しの大きな障壁となっていることがわかる。

(6) 被保護者にとって役立つ地域の場合

地域にどのような場所があると、被保護者にとって役立つか

〈複数回答〉	一般	高齢者	無回答	合計
①公園	8 9.3%	2 4.7%	1 2.9%	11 6.7%
②就労場所	33 64.0%	13 30.2%	16 45.7%	62 51.2%
③就労訓練の場所	36 41.9%	13 30.2%	13 37.1%	62 37.8%
④病院	16 18.6%	12 27.9%	10 28.6%	38 23.2%
⑤日常の買い物ができる場所	19 22.1%	13 34.9%	7 20.0%	41 25.0%
⑥人と出会う場・交流できる場所	26 30.2%	14 32.6%	10 28.6%	50 30.5%
⑦生きがいや役割のある場所	40 46.5%	15 34.9%	16 45.7%	71 43.3%
⑧気軽に相談できる場	27 31.4%	19 44.2%	8 22.9%	54 32.9%
⑨その他	2 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%
有効回答者数	86	43	35	164

病院科目	・精神科(3件) ・総合・全般(3件) ・アルコール専門 ・心療内科	・内科(2件) ・リハビリ ・総合・全般 ・整形外科	・精神科(7件) ・心臓内科 ・透析クリニック ・内科
その他の内容	・勉強できる場所 ・静かな物件		

地域にどのような場所があると、被保護者にとって役立つか【自由記述】

【一般】
・一般世帯には就労場所、就労訓練場所が役立つと思う
・高齢世帯は出会い交流出来る場所、生き甲斐や役割を感じる場所、気軽に相談出来る場所が役立つと思う
・高校卒業していると再度夜間学校とか入れないので、本人の就労意欲があるときは勉強できる場所があるといいと思います
・就労についてはそもそもハローワークの利用や書類審査、面接等のシステムに馴染みのない人達が多い
・軽作業などの仕事を役所から与えられるようなシステムがあればと思うことがある
・交流場所については、あいりんに密集しているので悪い友人たちと手を切りきれない人もいるといった印象がある
【高齢者】
・銭湯がなくなって困っているとの声をよく聞いています
・長く定住できる住居
【無回答】
・稼働能力がありながら、活用せず保護に甘んじるような人が多すぎる
・精神疾患がある方が多いが精神科・心療内科の数は増えないため、飽和状態になっているように感じる。初診までの待ち時間が長く数カ月先になっている

- ・ 地域にあると良い場所は、一般の世帯で「②就労場所」が64.0%、「⑦生きがいや役割のある場所」が46.5%と高くなっている。高齢の世帯で「⑧気軽に相談できる場」が44.2%、「⑤日常の買い物ができる場所」が34.9%、「⑦生きがいや役割のある場所」が34.9%と高くなっている。

(7) 支援に悪影響だと思ふ場所(こと)

地域にある場所で、支援に悪影響だと思ふ場所(こと)

〈複数回答〉		一般		高齢者		無回答		合計	
賭け事	パチンコ、ポード等	24	54.3%	12	0%	6	50.0%	42	65.6%
飲食店	酒屋、居酒屋、立呑	10	27.0%	5	33.3%	6	50.0%	21	32.8%
	ツケができる飲食店(居酒屋)	4	10.8%	2	13.3%	1	8.3%	7	10.9%
	お酒の自動販売機	1	2.7%	1	6.7%	2	16.7%	4	6.3%
	カラオケ喫茶、外国人スナック	4	10.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	6.3%
	アルコール等の誘惑	1	2.7%	1	6.7%	0	0.0%	2	3.1%
覚せい剤	覚せい剤の関係 (場所、売人、薬物依存等)	6	16.2%	3	20.0%	3	25.0%	12	18.8%
住まい	ドヤ街(簡易宿所)	2	5.4%	1	6.7%	0	0.0%	3	4.7%
	あいりん地域の低廉な物件	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	1	1.6%
不正就労	センター周辺(不正就労の温床)	2	5.4%		0.0%		0.0%	2	3.1%
悪徳業者、 団体等	金貸し(金貸し屋、家主)	0	0.0%	2	13.3%	0	0.0%	2	3.1%
	悪い屋、悪徳人物や業者	0	0.0%	0	0.0%	2	16.7%	2	3.1%
	支援者・NPO法人等(福祉目的ではなく金銭(利益)目的)	2	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.1%
	悪いことをする不動産屋	1	2.7%	0	0.0%		0.0%	1	1.6%
	宗教団体(被保護者からお金を搾取する)	1	2.7%		0.0%		0.0%	1	1.6%
環境	不衛生な環境(ごみ等)	1	2.7%	0	0.0%	1	8.3%	2	3.1%
	三角公園	1	2.7%	1	6.7%	0	0.0%	2	3.1%
	暴力団員事務所	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
	風俗	1	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
有効回答者数		37		15		12		64	

- 地域にあると悪影響だと思ふ場所(こと)は、「賭け事関係」が 65.6%、「酒屋、居酒屋、立呑関係」が 32.8%と高くなっている。また、覚せい剤についても 18.8%と高くなっている。
- 特に高齢者の困りごとで借金関係の回答も高かったことから、日常の金銭管理等の支援も重要になっている。

(8) 労働施設(西成労働福祉センター)の利用

センターを知っているか

〈単一回答〉	一般	高齢者	無回答	合計
はい	83	42	33	158
いいえ	1	1	1	3
無回答	2	0	1	3
有効回答者数	86	43	35	164

就労支援にあたって、センターの利用を勧めたことはあるか

〈単一回答〉	一般	高齢者	無回答	合計
ある	12	7	8	27
ない	70	36	25	131
無回答	4	0	2	6
有効回答者数	86	43	35	164

就労支援にあたって、どのような機能があれば就労指導に用いますか

〈複数回答〉	一般	高齢者	無回答	合計
①就労訓練の機能	36	18	13	67
②安定就労ができる機能	68	21	23	112
③その他	2	0	0	2
有効回答者数	86	43	35	164

その他の内容	・個人の確認及び情報の蓄積 ・紹介予定の訓練・派遣
--------	--

就労支援にあたって、どのような機能があれば就労指導に用いますか【自由記述】

提案	・ハローワークも入ったらどうでしょうか ・給料の手渡しでなく、振り込み、金銭面の透明化 ・就労後のフォロー(働いている場での困りごとや辞めたいと思うときに相談できる場)機能があれば、より良いと思う ・障がい者就労、生活支援センターの「障がいのない版」のような機能があればと思います ・就労能力を判定できる機能 ・障がい者移動支援があればよい ・短時間の軽労働をあっせんする機能 ・年齢にあった就労場所
勧めない・需要がない	・センターに対し、正規就労につなげるというイメージが薄いため、あまり勧めたことがない。 ・センターは日雇い労働の斡旋が大半だと思うため、あまり利用を勧めていません ・日々の仕事を与えられ、こなすだけでは安定した収入や自立につながらない。ただ、センターへの需要はそこではないので無理だと思う
機能を知らない	・センターについて、あるのは知っている ・自分はセンターの機能を知らない
その他	・見直した方がいい ・仕事全部

- ・ 西成労働福祉センターの認知度は96.3%と高く、ほとんどのケースワーカーが知っている。
- ・ 就労支援のためにセンターの利用を勧めたことがある方は、16.5%と低くなっている。
- ・ 就労支援にあたって必要な機能は、「②安定就労ができる機能」が68.3%と高くなっている。

- 被保護者の需要とセンターの需要がマッチしていない状況がわかる。今後、新たなセンター機能を検討する際、被保護者等の利用を取り入れるかも重要な課題となっている。

(9) ケースワーカーの仕事

ケースワーカーとして苦勞していること【自由記述】

被保護者の問題・コミュニケーション	・介護が必要な状態にあっても、支援を拒否する方に対する援助 ・介護や医療へつなぐこと(どちらに対しても悲観的な方に対する支援) ・価値観や基礎知識の違いがあり、主張を把握することや伝わるように説明することが難しい ・高齢者担当のため、自力で様々な手続きを出来ない方が多い ・指導しているが守ってくれない ・社会性を持たない人への支援 ・身軽ですぐに次の行き先が見つけれられるので、何かあるとすぐ失踪する ・制度への理解が多い ・説明責任を果たしても、周囲の人間のことば(自分に都合のいい意見)を採用する ・生育歴や職歴から型どおりの支援が難しいこと ・被保護者との関係づくり ・被保護者の自立意欲を高めること ・必要以上に頻回の来所や電話がある ・理解力が低下している人も多く、助言等もなかなか伝わらない ・無気力な被保護者の社会参加 ・無茶な要求などをされた時などに、うまく対応できないこと ・約束を守らない被保護者が多く、約束を守らないことで生活環境等が悪くなっていることに気づいてももらえないこと ・刑事事件が多いこと
作業量・ケース量・業務の多様化	・相談来所、転居相談が多い ・被保護者一人一人に応じた柔軟な対応 ・業務内容が多様複雑化 ・事務作業ばかり増え、本来のケースワーカーの仕事が出来なくなっている ・仕事が多岐にわたるかつ仕事量が大変多い ・仕事の内容が多岐に渡っているので必要とする知識が多い ・市民のひととのコミュニケーションをとりたいが事務作業が多くてとれない ・事務作業や付随業務が多くケースワークの時間が取れない(そうならないよう頑張っていきたい) ・失踪、逮捕等による廃止、開始を繰り返しているため事務作業、手続きが大変 ・生活保護法をはじめ、年金や介護保険制度など「生活」に密着した法律や制度が多岐にわたるため、その知識習得と様々な相談が来るので、それに対応できるよう上司や同僚にアドバイスを仰ぎながらやっていますが、多忙です ・定例業務を遂行することに追われ、相談支援に充分エネルギーを割けない ・相談内容は多岐にわたり簡単に解決できない問題が多い ・新規申請、失踪廃止も多く労力を要する ・本人、介護事業所、支援者からあらゆる内容の相談がひっきりなしに寄せられ、対応しきれない
住まい・転居に関する問題	・身寄りなく、保証人、緊急連絡先になってくれる人がいない ・敷金礼金が0円の物件や家主都合の転居が多いため、担当替えが多いこと ・区内で短時間に転居が多すぎる(特に同じ家系内で人をまわしている) ・生活保護を受けるために、安易に物件契約している。よってすぐ転居したり、勝手に出ていくことが多い ・定住せず、長期的な支援が難しいこと ・転居の相談を受けるが、敷金礼金が0円の物件が多すぎて、少し嫌なことがあると転居を繰り返す人が多い ・転居を繰り返して、生活がますます不安定になってしまうこと
病気・疾患・アルコール依存・認知症・ギャンブル	・精神疾患があり、生活が安定しない人々への支援 ・コミュニケーションに問題がある人を就労支援(医療、精神科)につなぐべきかどうか ・ニーズの把握の難しさ、被保護者の病気などもあり思いを上手く伝えられないことがあるため ・認知症や認知力の低下した高齢者の対応に苦勞している ・薬物、アルコール、ギャンブル、依存性の方への対応 ・認知症や精神疾患が疑われるが通院や介護利用を拒否する方への支援
就労意欲・指導	・就労意欲が乏しい稼働年齢の人たちへの指導(就労支援利用を拒否してくることが多い) ・就労指導(特に増収への切り替え) ・就労指導をしている人の就労意欲の喚起 ・仕事に定着せず、すぐに離職するケース ・被保護者の自己判断での退職(短期就労を繰り返し自己意思が見受けられないこと)

第4章 今後のまちづくりの方向性の検討にかかる具体化

関係機関等との連携	・金銭管理が必要なケースについて、利用できる社会資源が少ない ・不動産会社への対応 ・病院や医師が、あまり被保護者に向き合ってくれない。例えば、自立支援医療の申請ができると言いながら、申請の協力をしてくれない医療機関がある
支援方針・体制	・少しでも自分で考えて、ケースワーカーに依存せず、生活できるように支援していかなければと思います ・ケースワーカーが変わるたび、説明の微妙なニュアンスや内容が異なるのも被保護者の混乱を招く要因のひとつだと思われる。ある程度統一した見解、情報共有が必要だと思います
近隣トラブル	・地域住民から騒音や臭いの苦情が入っても、本人への指導がなかなか難しい時、市民の人の理解はなかなか得られず、苦情が長引くときが大変 ・近隣トラブルが多い(隣人と良い関係が築けない)
家族親族関係	・介護サービスでカバーできないことをしてくれる親族がいない人が多い ・引きこもり世帯への家庭訪問
不正就労	・未申告の収入が発覚することが多いこと
若年層への支援	・不登校の子どもへの支援
地域イメージの問題	・「西成」に來れば生活保護を受けやすいというイメージ
専門医院不足	・疾病や障害の特性に応じた治療を行う精神科が無いこと
その他	・被保護者への関心と熱意

- ケースワーカーは幅広い分野の相談業務に従事し、対処も求められており、時間をかけて被保護者個々にあった支援をしていくことが難しい状況がわかる。

ケースワーカーとして重視している支援内容【自由記述】

相手の話を聞く・コミュニケーション・説明	・まずは傾聴する。否定しない ・対象者の訴え、相談事に可能な範囲で傾聴受容すること ・極力相手の立場を尊重するように心がけている ・傾聴、アウトリーチ ・公正な支援。本人が納得できる説明をするよう心がけている ・生活保護の本来の目的が相手に伝わるよう、繰り返し説明する ・相談しやすい関係を築く ・対話を通じて個々の思いを知り、ニーズの把握に努める ・同じ目標に立ち、何が必要なことが考える ・被保護者が必要としていることをできるだけ引き出し、聞き取るよう努めています ・被保護者の状況を把握して、それぞれに必要な支援を行うように心がけています ・被保護者と接する場合は、しっかり聞くことで安心感を与えることを重視 ・説明する時も、相手の納得感を満たせるよう丁寧に説明するようにしています ・豊かな感受性で話を傾聴し、具体的な指示、指導できること ・本人の希望と、社会通念上の考え方の隔たりがある場合など、どのように本人に分かってもらえるか考え、説明したりすることを心がけている
生活の質の向上・安定	・金銭面の自立だけではなく、自分で行うべき事は行う生活に関わる自立の促進 ・一人ひとりの生活の質の向上 ・健康な生活、健全な生活 ・安定した生活が過ごせるよう支援 ・困窮に陥らないように支援すること ・生活、家庭環境の安定に向けた支援 ・生活が破綻しないよう、金銭管理を含めた適切なサービスに連携すること ・長く心身共に安定して生活出来ることを重視しています ・一時援助や控除がなるべく適用できるよう知識を集める ・病気やケガ、日常生活を送るうえでの様々な困りごとに対する支援 ・安心して暮らせる生活(生活の安定) ・本人自身が主体的に考え、生きられるよう支援したい
関係機関、支援団体等との連携・活用	・社会資源の活用 ・相談内容を理解し訴えのできない人の必要な支援を見つけ関係機関と連携をとる ・他の関係機関との調整 ・他法の活用 ・高齢者に対しては介護サービスの利用支援をするなど、関係機関との連携 ・被保護者を支援してくれる輪を広げる、維持すること ・利用できる障がいサービス等の情報の提供を行い、利用につなげること
自立支援・就労支援	・稼働年齢層の自立 ・行政として出来ること、出来ないことの線引きをはっきりさせ被保護者自身が意思決定できるよう、支援をこころがけています ・体調面と稼働能力とのバランスに配慮した就労指導 ・体力、体調にあった仕事 ・被保護者が主体となって問題を解決できるよう、手を貸しすぎない ・自分でできることは行うよう適度な支援と情報提供
各被保護者に合った支援	・対象者の強み(ストレンクス)に注目し、本来持っている力を引き出す支援 ・その人らしく、安全に安心して過ごせるよう、必要な情報提供、又、支援に繋ぐよう努めている ・その方々、それぞれの状況に応じ支援体制の強化を図っていくように重視している ・個々に必要と思われる支援内容を考えるが、被保護者とは温度差があるように思う ・個別の世帯状況にあわせて、就労支援や職業指導等を行うこと ・受給者にとって不利益にならないよう、持っている能力を活用してもらえるよう心掛けている

社会参加・孤立化の防止	・孤立化の防止、早期の支援介入
	・社会参加に向けての支援
	・自立を目指してもらったことももちろん大切ですが、「社会とのつながり」を細くとも(軽労働など)維持してもらったことを重視している。それが途切れるともう一度、は難しいと思います
	・生活の見守り
気持ちのケア	・対人技能の習得
	・希望をもって生きるための支援
	・少しでも、いい日々を送ってもらえるようになれば、と思いながら関わっている
通院、医療、障害に関する支援	・気持ちの支援
	・病状について理解すること
資産調査・家族確認	・通院、受診の支援
	・不正受給がないよう資産調査、家庭訪問などに特に重点に置き支援を行っている

- ・ ケースワーカーとして重視している支援は、「相手の話を聞く・コミュニケーション・説明」「生活の質の向上・安定」について多くあげられている。
- 重視している支援として、個々の被保護者とのコミュニケーションや個々にあった就労支援をあげている。そのためにも、関係機関や支援団体等とのスムーズな連携や情報の共有もより大事になってくると考えられる。

どのような支援が今後、大事になってきますか【自由記述】

高齢者・ 障がい者・ 認知症への対応	・高齢化がすすんでいるため、身寄りのない人の保証人、緊急連絡先になってもらえる機関
	・60代以降の就労機会の需要と供給のバランス
	・65歳以上の低年金者に対する就労の場を増していくこと。就労不可の場合は生活能力の維持
	・これまで以上に高齢者世帯が増えてくるので高齢者に対する支援の知識や他機関との連携が必要と思われる
	・介護等にかかる部分
	・高齢化が進み、認知症によるトラブルへの対処
	・被保護者を喰いものにする悪質な業者(物件を所有していて、介護サービスも行っており、被保護者が転居したいといってもさせない、サービスの実態がひどい)も存在することが心配
	・高齢化に伴い、それに伴う支援(病院や介護など)
	・高齢者(単身で、社会性が高くない方(引きこもり傾向))が恥ずかしがらずに、ゆるやかに、心の支えとできる何か(必ずしも参加を必要としないものもありか)例えば、無料の日刊地域新聞とか
	・高齢者(認知症等)や児童に対して生活支援(見守り、関わりを持つ機会を増やす)、貧困問題解決のための抜本的な改革(社会保険など)
	・高齢者が増えることによる、適切なサービス利用のための援助
	・高齢者のいきがい
	・高齢者の割合が高くなっているので、元気な人には、高齢な方でも就労につなげたり、生きがいになる活動の場につなげるような取り組みが必要になってくると思います
	・高齢者の見守り支援や交流の場づくり
	・高齢者への支援のニーズも高まると思うが、障がい者への支援に対してもニーズが高まると思う。高齢者への支援であれば初期段階で包括支援センターとの連携などチームを組みやすいが、障がい者への支援の初期段階での連携先があればいいと感じる
	・高齢者支援
	・高齢者増加によるサービス、あんしんさぽーと事業利用者の増加
	・サービスが必要な高齢者への支援
	・高齢者の生きがいや健康づくり
	・増加する高齢者に対する支援
	・団塊世代が75歳以上となる2025年ごろには、介護保険や医療費が増大しそうなので、介護事務所や病院が増えるかもしれない
	・独居困難となった高齢者への支援
	・障がいのある方のサービス
	・認知機能が低下し、介護保険につながっていない方をどのように申請から進めていくことが出来るのか
	・被保護者の高齢化による福祉施設の充実
つながり・居場所・ 気持ちのケア・ 生きがいづくり	・ちょっとした雑談(困り事)を気軽に相談しに行ける、ランチ的な機能を持つ窓口
	・メンタル面での支援
	・意欲喚起(生活も就労も)
	・心のケア
	・人との出会いの場がないので、そのような場があれば良いと思います
	・生きがいを見つけることと生活保護からの脱却する気持ちが向上する支援
	・精神疾患の方が多く感じますし、今後も増えると思います。またその症状も様々で、メンタルケアの手法といいますが、上手なアプローチが大事になってくると思います
	・精神的な支え
	・西成区は高齢の受給者が多いので、介護や支援者が全くない孤独死が多い点も含めた高齢者の日々の生活支援
	・単身の方が多いため交流や生きがい作りの支援
	・単身世帯のつながり(特に65歳未満で仕事のときに、緊急連絡先や保証人がいないような人)
	・地域とのつながり作り
	・地域と親交を深められるような支援
	・地域の方々の情報がほしい

自立支援・就労支援	・金銭管理(お金を費消してしまう方への支援) ・就労に向けた支援(若者が増えているため) ・就労意欲を形成するための取り組み ・訓練の場 ・定着支援 ・少子高齢化に伴い今後も被保護者は増加する一方であると思われる。そのため不正受給者などには今後も厳しい指導が必要である ・稼働能力のある者については生活保護から脱却できるよう支援が必要であると思われる ・生活保護を受給せずに生活ができるようにするための支援体制 ・就労支援がさらに大事になると思います ・中間的就労のニーズが高いと思う ・長期的な就労ができ、自立に繋がるような、個人に合わせた就労支援 ・被保護者の意識改革
関係機関、支援団体等との連携・活用	・他部署との連携を取り、情報の共有。これにより不正や問題も浮かび上がるが早期解決もできると思われる ・介護予防への連携 ・行政以外の社会資源の提供 ・施設入所 ・他事業者との連携が大切と考えている ・他方との密な連携 ・他法のサービス活用、つなぐこと ・地域や関係先機関と情報を共有し、連携を取った支援が必要である ・市営住宅の完備。特養、認知症対応施設の増設 ・認知症や精神疾患等で病識がない方に対する通院について他機関との連携 ・被保護者の困りごとを見かけ、解決に向けて関係機関と連携していくこと
相手の話を聞く・コミュニケーション・説明	・対応能力 ・対話をする必要があると思います ・一人ひとりきめ細やかな支援 ・課題を抱える対象者が主体的に生活できるような支援、援助 ・個々のニーズに応じた支援、より一人ひとりによりそった支援 ・行動の把握 ・指導 ・自己尊重
税金の有効活用・不正の防止	・税金の効率的な使用 ・年金調査 ・生活を利用した貧困ビジネスの存在を感ずす ・本人が主体的に生きることが出来て、本人のために税金が使われる支援のあり方が必要だと感じます ・不正の防止、罰則の強化 ・不正受給の根絶を重視した、制度の適正な運用が求められてくると思います
ケースワーカーの能力・専門性向上	・ケースワーカーの知識力が大事では ・ニーズは高まると思うがケースワーカーがする仕事の幅が増加していると思う ・認知症等、高齢者が抱える問題に対応する専門性 ・病状、障がいについて知識を持ったケースワーカーが求められる ・被保護者は精神疾患(発達、パーソナリティ障がい含む)を持った方が多く、対人職を行う上である程度の専門知識があれば役立つと思います
子ども・若年層への支援	・貧困の連鎖を止めるために子どもにスポットを当てた支援 ・若年層の就労意欲の促進 ・若い人も保護を受けているので就労指導 ・若年層の被保護者(10代、20代前半の母子世帯など)が増えているイメージがあるため、そのような受給世帯が早急に自立できるようになる支援
新たな支援体制	・手帳を所持している方は障がいサービス等利用できるが、境界線にある方のサポートが出来ないので、何とか支援体制が必要だと思う ・本人が医療や支援を必要としないが通年の就労が困難等、制度の隙間で困る人の対処 ・刑務所から出所して生活保護を繰り返すケースが多いがそういう人達の一時更生施設みたいなところが必要ではないか ・不正受給を減らすための取組。今の人員と役所のシステムだけでは難しいと思います
生活の質の向上・安定	・基本的生活習慣や金銭管理への支援 ・服装管理、食事の管理等の生活支援

- ・ 今後大事な(ニーズが高い)支援として、「高齢者・障がい者・認知症への対応」「つながり・居場所・気持ちのケア・生きがいづくり」「自立支援・就労支援」に関連した内容が多くあげられている。
- 支援の方法として、日常生活のなかで居場所やつながり、生きがいを感じる場所の存在は重要であり、今後、地域や他の支援との連携の需要も高まってくると考えられる。

5. 被保護者調査の結果・分析

・有効回答者数：19件 ※図表中の「n」は標本数(サンプル数)を表す

(1) 回答者の基本属性

回答者の属性

年齢	平均59.1歳
生活保護受給年数	平均4.0年
居住年数(現在の住まい)	平均2.4年

性別

性別	〈単一回答〉	n	割合
男性		19	100%
女性		0	0%
有効回答者数		19	

世帯構成

世帯構成	〈単一回答〉	n	割合
単身		19	100%
単身(他人と同居)		0	0%
夫婦		0	0%
夫婦と子		0	0%
ひとり親		0	0%
多世代		0	0%
有効回答者数		19	

町会加入状況

町会加入状況	〈単一回答〉	n	割合
未加入		18	94.7%
加入		0	0%
分からない		1	5.3%
有効回答者数		19	

調査地域

調査地域	〈単一回答〉	あいりん 地域外	あいりん地域 及び周辺	合計
萩之茶屋1丁目			3	3
萩之茶屋2丁目			1	1
花園北1丁目			1	1
山王3丁目			2	2
天下茶屋東2丁目		1		1
津守南6丁目		1		1
玉出中1丁目		1		1
玉出東2丁目		1		1
太子2丁目			1	1
萩之茶屋3丁目			1	1
長橋1丁目		1		1
橋3丁目		1		1
湖路2丁目		1		1
岸里東1丁目		1		1
岸里東2丁目		1		1
花園南1丁目		1		1
有効回答者数		10	9	19

従前の居所

〈単一回答〉	n	割合
あいりん地域	14	73.7%
大阪市内	3	15.8%
大阪府内	1	5.3%
その他	1	5.2%
有効回答者数	19	

現在の居所と従前の居所の関係

〈単一回答〉	現在の居所			割合
	あいりん地域外	あいりん地域及び周辺	合計	
あいりん地域	9	5	14	73.7%
大阪市内	1	2	3	15.8%
大阪府内	0	1	1	5.3%
その他	0	1	1	5.2%
有効回答者数	10	9	19	

居所の所有

〈単一回答〉	n	割合
持ち家	0	0.0%
賃貸	19	100.0%
有効回答者数	19	

居所の構造

〈単一回答〉	n	割合
木造	0	0.0%
鉄骨	12	63.2%
鉄筋コンクリート	7	36.8%
有効回答者数	19	

居所の建て方

〈単一回答〉	n	割合
戸建て	0	0.0%
長屋建て	0	0.0%
アパート	0	0.0%
民間共同住宅	19	100.0%
公営住宅	0	0.0%
有効回答者数	19	

(2) 現在の住宅の状況

【部屋の広さ】

〈単一回答〉	あいりん地域外		あいりん地域及び周辺		合計	
①3畳一室程度	0	0.0%	6	66.7%	6	31.6%
②4~6畳一室程度	10	100.0%	3	33.3%	13	68.4%
③3部屋以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
有効回答者数	10		9		19	

【風呂・便所】

〈単一回答〉	あいりん地域外		あいりん地域及び周辺		合計	
①なし	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②共同	0	0.0%	6	66.7%	6	31.6%
③便所あり風呂なし	1	10.0%	0	0.0%	1	5.3%
④どちらもあり	9	90.0%	3	33.3%	12	63.1%
有効回答者数	10		9		19	

【家賃】

〈単一回答〉	あいりん地域外		あいりん地域及び周辺		合計	
①3万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②3~5万円未満	10	100.0%	9	100.0%	19	100.0%
③5万円以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
有効回答者数	10		9		19	

- 部屋の広さは、あいりん地域及び周辺の居住者では66.7%の方が「①3畳一室程度」の狭小な生活空間で生活をしている。
- 水回り(風呂・便所)は、あいりん地域及び周辺の居住者では66.7%の方が「②共同」で生活をしている。
- 西成区内では、あいりん地域及び周辺のアパートで狭隘な居住空間で生活を送っている場合が多いことがわかる。

(3) 現在の住宅の選び方

【選び方】

〈単一回答〉	あいりん地域外	あいりん地域及び周辺	合計
①自力で選んでいる	7 70.0%	4 44.4%	11 57.9%
②相談窓口等での紹介	0 0.0%	1 11.1%	1 5.3%
③わからない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
④その他	3 30.0%	4 44.5%	7 36.8%
有効回答者数	10	9	19

その他の内容	・火災により管理人が他社に依頼 ・簡易宿所のオーナーが不動産屋を紹介 ・中間管理の斡旋者に出て生かされた。民泊になるため	・ケースワーカーに相談 ・三徳寮の相談室 ・入院中に施設の方がきて探してくれた ・野宿をしていて、宿の人に声をかけられた ・友人の紹介
--------	--	---

【情報】

〈単一回答〉	あいりん地域外	あいりん地域及び周辺	合計
①地元の不動産屋	3 30.0%	1 11.1%	4 21.1%
②WEBの不動産情報	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
③家族	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
④友人知人	2 20.0%	2 22.2%	4 21.1%
⑤自治会や民生委員	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑥支援者(団体)	1 10.0%	1 11.1%	2 10.5%
⑦その他	4 40.0%	5 55.6%	9 47.3%
有効回答者数	10	9	19

その他の内容	・もともと借りていたアパートの方から紹介 ・斡旋業者 ・火災により管理人が他社に依頼 ・介護の人が紹介してくれた ・友達を通じて大家に連絡	・ケースワーカー ・簡易宿所のときから利用していた ・三徳寮 ・施設の方 ・自分で探した ・宿の方
--------	---	--

- ・住まいの選び方は、「①自力で選んでいる」が57.9%と高い。特に、あいりん地域外の物件を探す場合、70.0%の方が自力で選んでいる。
- ・住まいの情報源は、不動産屋からの情報収集より、友人知人や施設の方、支援団体、斡旋業者などからの情報を手に入れる方が多い。

現在の住居を探す際、困ったこと

〈単一回答〉	あいりん地域外		あいりん地域及び周辺		合計	
①家賃が高い	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②初期費用(敷金、礼金、転居費)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
③不動産情報が手に入らない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
④バリアフリーなど生活に適した物件がない	0	0.0%	1	5.6%	1	1.6%
⑤立地条件が合わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥どんな物件が良いかわからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑦探す意欲がわからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑧その他	10	100.0%	8	88.9%	18	88.9%
有効回答者数	10		9		19	

その他の内容	・困ったことはない(6件) ・斡旋業者が勝手に選 び、写真だけを見せら れ無理に決められた ・介護の人が引越もし てくれたので問題ない ・緊急で住まいが必 要だった ・不動産屋を紹介して もらえなかったら手続 きができなかった	・困ったことはない(5件) ・宿の方にしてもらっ たから問題ない ・生まれも育ちもあいり んなので問題は無 かった ・風呂とトイレがある物 件を探すこと

住居を探す際に困ったことは、ほとんどの方が「ない」と回答している。

今の住宅には満足しているか

〈単一回答〉	あいりん地域外	あいりん地域及び周辺	合計
はい	7 70.0%	5 55.6%	12 63.2%
いいえ	2 20.0%	3 33.3%	5 26.3%
どちらとも言えない	1 10.0%	0 0.0%	1 5.3%
無回答	0 0.0%	1 11.1%	1 5.2%
有効回答者数	10	9	19

今の住宅には満足についての評価理由

〈複数回答〉	はい	いいえ・どちらとも言えない	無回答
①騒音、静かさ	5 41.7%	2 33.3%	0 0.0%
②人間関係(近所関係)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
③衛生面	3 25.0%	2 33.3%	0 0.0%
④設備面	4 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
⑤部屋の広さ	4 33.3%	1 16.7%	0 0.0%
⑥バリアフリー(段差や使い勝手)	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%
⑦立地(スーパー、病院などが近い)	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑧その他	8 66.7%	5 55.6%	1 10.5%
有効回答者数	12	6	1

その他の内容	・立地には不満がある(2件) ・周辺環境良い ・虫が多い ・部屋の隙間風がひどい ・水回りが共同でつらい ・管理人、帳場がないので引越し後の手続きや相談ができなかった
--------	--

- ・ 住居の満足度は、「満足している」が63.2%あるが、あいりん地域及び周辺の方が55.6%と低くなっている。
- ・ 満足していない理由として、害虫や水回りなどの問題があげられる。

(4) 日常生活・地域とのつながり

普段の外出頻度

〈単一回答〉	あいりん地域外	あいりん地域及び周辺	合計
①毎日外出する	5 50.0%	6 66.7%	11 57.9%
②週5～6日程度	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
③週3～4日程度	1 10.0%	1 11.1%	2 10.5%
④週1～2日程度	2 20.0%	1 11.1%	3 15.8%
⑤ほとんど外出しない	2 20.0%	1 11.1%	3 15.8%
有効回答者数	10	9	19

- 外出頻度は、「①毎日外出する」が57.9%あるが、若干、あいりん地域外居住者の方が外出機会が少なくなっている。

ご近所や地域との日常のつながり

〈単一回答〉	あいりん地域外	あいりん地域及び周辺	合計
①交流はない	3 30.0%	3 33.3%	6 31.6%
②あいさつをする程度	6 60.0%	5 55.6%	11 57.9%
③日常会話程度	0 0.0%	1 11.1%	1 5.3%
④悩み事などを相談する	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑤食事や買い物と一緒にする	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑥地域イベントや活動に参加する	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑦その他	1 10.0%	0 0.0%	1 5.2%
有効回答者数	10	9	19

その他の内容	・友人が2階に住んでいて週一回会う	・昔の仕事仲間に含えば話をする
--------	-------------------	-----------------

- ご近所や地域とのつながりは、「①交流はない」が31.6%、「②あいさつをする程度」が57.9%とほとんどの方があまり交流がないことがわかる。